



# 草原やさいだより



No.2

2005年9月発行

阿蘇草原再生シール  
生産者の会事務局  
〒869-2225

熊本県阿蘇市黒川 1180  
阿蘇自然保護官事務所内  
Tel : 0967-34-0254  
http://www.aso-sougen.co  
m/producer/

## 第二回理事会報告

時 平成一七年八月三十一日(水)  
一九時〜二二時

於 阿蘇市一の宮町坂梨公民館

「阿蘇草原再生シール生産者の会」の第二回理事会が開かれ、三つのテーマについて報告や話し合いを行いました。

入会状況などについての報告

・会員数(一九名)、シール発行実績を確認しました。

・会の収支状況について中間報告が行われました。(表参照)

・会員についての情報をまとめました。(裏面に記載)

イベント販売について

・都市部で二度に渡って行ったイベント販売について報告を受け、精算方法を決めました。また、反省点を挙げるとともに、今後の可能性について検討しました。

今後の事業展開について

・今後も、流通経路の開拓、会員の拡大を図っていきます。

・広報用のチラシを作成・配布するとともに、会員間情報共有のため、本会報「草原やさいだより」を引き続き発行します。

### 生産者の会 収支中間報告

平成17年8月31日現在

内 訳		備 考	
入金	入会金	生産者 19,000	
		特別 3,000	未1
		賛助 3,000	
	発行手数料	シール 15,000	1
		デザイン 30,000	2, 未2
	計	70,000	
出金	印鑑購入	1,445	
	公民館使用料	500	
	会議費	715	
	切手代	1,040	
	計	3,700	
残額	計	66,300	
内訳	確保分(印刷費)	10,000	3
	未収金	33,000	未1+2
	現金残額	23,300	

- 1.5円/枚×10,000枚=15,000円
- シール手数料0.2円/枚×150,000枚=30,000円
- (1.0円/枚)×10,000枚=10,000円を出金予定

## イベント販売を終えて



福岡市でのイベント販売(七月二十七日)に引き続き、八月五日(金)、熊本市の熊本県観光物産交流スクエア「かたらんね」において、草原再生シールを貼った農産物の販売を行いました。

も見え、参加した会員はお客様と楽しく言葉を交わしながら、野菜を販売することができたようです。

多くの品目が売れましたが、重量のあるジャガイモやタマネギ、モチ米などに売れ残りがありませんでした。

各回の収支状況は表のとおりです。

来場者アンケート(有効回答者は両会場計一六四名)によると、シールつき農産品を見てよいと感じた点は「安心・安全」と答える方が多く、「草原環境の保全に貢献できる」という回答は3割弱でした。が、

九五%の回答者が「キャンペーン販売を通して阿蘇草原再生に興味を持ってください」と答えています。今後も購入したい商品や欲しいものを示し、次回もよろしくお願いします。

### イベント販売収支状況

7月27日 福岡		8月5日 熊本	
売り上げ	119,230	売り上げ	75,780
生産者分 1	84,456	生産者分 1	53,768
	34,774		22,102
諸経費 2	28,210	諸経費 2	16,500
会の収益	6,564	会の収益	5,602
( 2諸経費内訳)		( 2諸経費内訳)	
高速道路(1台分)	6,200	食事代等(5人分)	11,500
燃料代(1台分)	3,000	日当(5人分)	5,000
減価償却費	3,000	*輸送は事務局車両によった	
食事代(5人分)	11,010		
日当(5人分)	5,000		

1: 今回のイベントでは、阿蘇の直売所価格に2割を上乗せした価格で販売。直売所価格の15%を上乗せ分2割を経費などに充て、直売所価格の85%を生産者に戻しました。

### イベント販売の継続に向けて

今回のイベントは、生産者の会と環境省との共同事業として行ったものです。今後、会単独で継続的にイベント販売を行っていくためには、以下のような条件が必要となると考えられます。

精算条件: 今回と同じ条件(上記収支表 1参照)

会の負担: 野菜輸送用のトラックと運転手を手配する。  
販売担当者を運ぶ車と運転手を手配する。  
販売責任者を決める。

以上の条件のもと、各会場で想定される売上げから生産者の取り分を差し引いて、使用可能な諸経費額を算出しました。その結果、生産者の会単独でイベントを行う場合、以下の体制であれば採算がとれるという予想が立ちました。

熊本: 軽トラ2台、参加者4人  
トラック1台、参加者3人  
福岡: トラック1台、参加者3人

⇒ 継続可能

### <参加した会員の感想・反省>



阿蘇出身のお客さんが兄弟のように話しかけてくれた。品質のいいもので阿蘇をアピールすることが重要だと思った。核家族や一人暮らしなど都会の人のニーズを考えて、袋詰め量を調整する必要があると思った。事前に販売価格、品種別の入荷状況等を明確にして、値札の用意や売り捌きの調整など準備をしっかりしておくべきだと思った。お客さんは、野菜購入を目的に来場されるため、「草原再生シール」をほとんど認知していない。シールを強調する商品陳列やPR方法を検討すべき。年に数回イベント販売を行うことは会員の楽しみにもなり、草原再生や会のPRに効果的だと思う。

<お知らせ>

応援求む!

参加者を募集

その一 グリーンストックの

お歳暮に参加決定!

財団法人阿蘇グリーンストックは、宅配便による阿蘇の特産品の通信販売を行っていますが、このたび、生産者の会の農産物を販売することにしました。  
お歳暮のギフトとして、この冬、シールを貼った野菜をお客様にお届けする予定です。



その二 この秋、熊本市内にて

キャンペーン販売が決定!

夏に引き続き、次の日程で、キャンペーン販売を実施します。

日程 十一月十六日(水) 十時~十七時半  
十一月二十五日(金) 十時~十七時半  
場所 両日とも「がたらんね」  
熊本市手取本町八二(ニテトリアくまもと二階)



いずれも、生産者のみなさまのご参加をお待ちしています。

なお、グリーンストックのお歳暮、秋のキャンペーン販売について、参加希望の方にお集まりいただき、打ち合わせを行います。  
ご参加くださいますようお願いいたします。

《打ち合わせ》

日時 十月五日(水) \*時~

場所 \* \* \* \*

備考 参加いただける方は、事前に会長まで連絡をお願いします。

阿蘇草原再生シール生産者の会

会員の人たちはこんなふうに  
野草を使っている

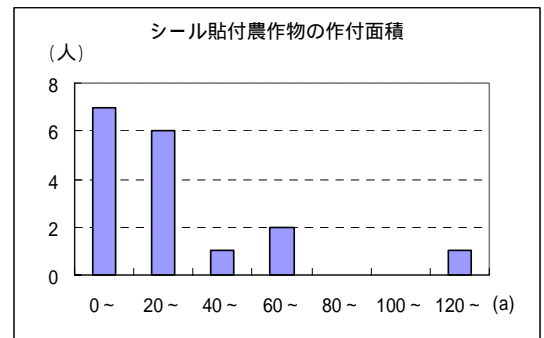
現在、生産者の会の会員は19名。申請書の記載をもとに、データをまとめたので、その一部を紹介します。  
( 推計によるデータを含みますので、取り扱いに注意してください。 )

居住地

会員の居住地は、阿蘇市一の宮町が19名中16名(84%)、阿蘇市(旧阿蘇町)2名、南阿蘇村(旧白水村)1名となっています。

シールを貼っている農作物の作付面積

シール貼付農作物の作付面積は、合計で503aです。40a未満の会員が13名で全体の7割を占めています。



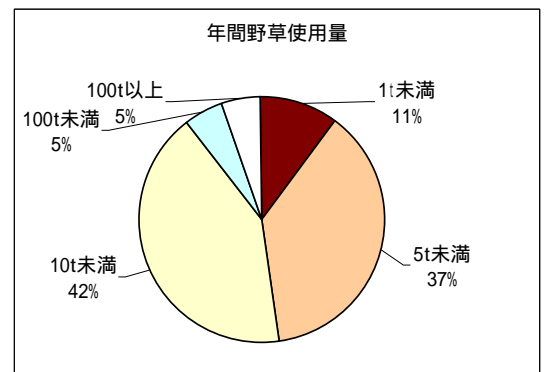
シールの年間利用枚数

想定されるシールの年間利用枚数は、合計で202,600枚、平均すると1人当たり10,633枚の利用が予想されます。

野草の使用量

会員による野草の年間使用量は、合計266t(乾草重量)と推計されます。自家採草している会員は12名、購入などにより野草を確保している会員が7名でした。自家採草の量は、241tで全体の約9割になります。

会員が1年間に使用している野草の量を面積に換算すると、44haの草原の採草量にあたります。この面積は、阿蘇全体の野草地面積(14,000ha)の約0.3%に相当します。



「阿蘇原牧野の土壌と化学組成」(1961)によると、1961年当時、ススキ主体の野草の生産量(乾草)は10aあたり400~800kgという調査結果が出ています。ここでは600kg/10aで計算しました。

野草の使い方

野草使用量を用途別にみると、主に堆肥等田畑用に使用している会員が11名、飼料や敷き料にした後堆肥にして利用している会員が7名、両方同程度という会員が1名でした。総使用量で比較すると、飼料/厩舎用が190tと全体の7割を占め、残り3割が堆肥など田畑に使われています。